

V10

Flash Eyes

観戦ガイド 1月13日号

天皇杯・皇后杯
2020年
全日本卓球選手権大会
(一般・ジュニアの部)
丸善インテックアリーナ大阪
(大阪市中央体育館)
2020年1月13日(月)
～19日(日)

全日本 超絶決戦再び

天皇杯・皇后杯 2020年全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)が、13日(月) 丸善インテックアリーナ大阪(大阪市中央体育館)で開幕。今大会のシングルス優勝者は、2020年世界選手権釜山大会(団体戦)の代表に内定する。 **栄光の天皇杯・皇后杯を手にするのは？**

掴み獲れ!! 世界代表のチケットは誰の手に!!



★平成30年度男子シングルス優勝
水谷 隼(木下グループ)

◆ 試合速報 ◆

試合の結果速報は、大会サイトで検索することができます。下記アドレスでご確認ください。

●全日本選手権特設サイト

<http://www.japantabletennis.com/zennihon2020/>

◆ 入場料 ◆

●アリーナ席・SS席・S席・A席がございます。

詳細は、下記アドレスでご確認ください。

<http://www.japantabletennis.com/zennihon2020/ticket>

◆ 丸善インテックアリーナ大阪 ◆ (大阪市中央体育館)

大阪市港区田中3-1-40

TEL : 06-6576-0800

●大阪メトロ(地下鉄)「朝潮橋」駅下車徒歩3分

https://www.yahatayapark.jp/osaka_arena/index.html

■男子ダブルス

昨年準優勝の松山・高見組、3位の松下(海)・藤村組、社会人王者の横山・徳島組、同準優勝の松平・平野組、3位の高木和・上江洲組、江藤・松下(大)組、鹿屋・有延組など実力者がひしめく。昨年、張本と組んで優勝した木造は新パートナー田中とのコンビで学生王者ペアとして参戦。学生準優勝の龍崎・沼村組、3位の宮本・田原組、浅津・小野寺組、及川・三部組や高校生の戸上・宮川組、加山・曾根組に加え、中学生1・2位ペア吉山・鈴木組の闘いぶりにも注目。一昨年王者で昨年3位の水谷・大島組は王座返り咲きを狙う。

■女子ダブルス

昨年王者で世界選手権準優勝の伊藤・早田組が3連覇に挑む。昨年準優勝の芝田・大藤組、3位の松本・平組、世界選手権銅メダルの佐藤・橋本組、世界ジュニアに続きグランドファイナルも優勝と勢いに乗る長崎・木原組、社会人王者土田・宋組、準優勝の成本・井組、3位安藤・徳永組、永尾・阿部組、山本・加藤組らがしのぎを削る。学生王者の三條・熊中組、同準優勝の枝松・木村組、高校王者大川・本井組、準優勝の高田・岡田組にも期待。最年少張本・加藤組の大学生相手の初戦にも注目!

■男子シングルス

昨年、史上最多10回目の優勝を成し遂げた水谷隼が不在のなか、第一シードとなったのは昨年準優勝の大島祐哉。一昨年王者で世界ランキング5位、五輪代表内定の張本智和は再び王座を狙う。同じく五輪代表の座を掴んだ丹羽孝希、昨年シングルス3位でダブルス優勝の木造勇人。元王者の吉村真晴、シード選手で唯一のペンホルダー吉田海偉も返り咲きを狙う。混合ダブルス連覇、2020世界代表選考会優勝の森菌政崇、全日本社会人優勝の大矢英俊、平野友樹、上村茂哉、吉田雅己、町飛鳥、神巧也、賢二・健太の松平兄弟らが社会人の意地をみせるか。学生界では、大学総合優勝の及川瑞基、東京選手権優勝の龍崎東寅、松山祐季、高見真己、沼村齊弥らにも注目。高校生では、世界ジュニア3位の戸上隼輔、世界ジュニア混優勝の宇田幸矢、高校総体準優勝の篠塚大登。また中学王者の吉山僚一、ホープス王者の松島輝空の活躍はいかに? 令和最初のハイレベルな闘いを勝ち抜くのは果たして・・・

■混合ダブルス

3連覇に挑む森菌・伊藤組、昨年準優勝張本・長崎組、3位の上村・阿部組、元王者の張・森菌美咲組、入賞経験のある軽部・松本組らに加え、昨年3位の田添健汰は新パートナーの森菌美月との新ペアで参戦。初日から熱き闘いが始まる。注目の小学生松島輝空は大学生の丸と組んで出場。初戦突破なるか?

■ジュニア男子

昨年3位、高校総体3位の谷垣佑真が第一シード。同じく昨年3位の横谷晟が第二シード。高校総体準優勝の篠塚大登、同3位の新名亮太、世界ジュニア代表の曾根翔ら高校生に交じり、中学王者吉山僚一、準優勝の鈴木颯、カデット14歳以下王者中村煌らの中学生が挑む。ホープス王者松島輝空はジュニア初制覇なるか?!

■ジュニア女子

昨年王者の出澤杏佳、準優勝の大藤沙月が第一、第二シードを分ける。昨年3位ながら一般で準優勝の木原美悠、世界ジュニア準優勝の中学王者小塩遥菜、2018世界ジュニア3位の相馬夢乃、高校総体準優勝の岡田翠菜、中学準優勝の白山亜美らが頂点を目指す。カデット14歳以下王者の久保ひかり、ホープス王者張本美和の闘いぶりにも注目!

■女子シングルス

女子史上初の3冠連覇を達成した世界ランキング3位の伊藤美誠は3年連続3冠を目指す。歴代3位5度目の優勝に挑む石川佳純、2020世界代表選考会優勝の平野美宇の王座復活なるか。昨年準優勝、世界ジュニア複・混優勝、グランドファイナル複優勝の木原美悠、世界ジュニア単・複王者、グランドファイナル複優勝の長崎美柚、ペラルーシオープン、パラグアイオープン、セルビアオープン優勝の早田ひな、タイオープン優勝の佐藤瞳、アジア選手権複3位の芝田沙季、カットの橋本帆乃香らにも関心が集まる。昨年3位の森さくら、社会人王者の野村萌、準優勝の安藤みなみ、3位の平侑里香、庄司有貴、学生王者の森田彩音、学生選抜優勝の木村香純らの活躍は? 昨年、ジュニアを制し一般でもランク入りした出澤杏佳、高校王者の出雲美空、中学生ながら世界ジュニア準優勝の小塩遥菜、小学生張本美和の闘いぶりも目が離せない。



3冠

★平成30年度女子シングルス優勝
伊藤美誠(スターツ)

☆男女シングルス タイトル数

《男子》

1. 水谷 隼	10回 (5連覇、4連覇含む)
2. 齋藤 清	8回 (4連覇含む)
3. 長谷川信彦	6回 (3連覇含む)
4. 藤井 則和	5回 (4連覇含む)
5. 松下 浩二	4回 (2連覇含む)
5. 偉関 晴光	4回 (2連覇含む)
7. 田中 利明	3回 (3連覇)
7. 河野 満	3回 (3連覇)
7. 高島 規郎	3回 (2連覇含む)

《女子》

1. 小山 ちれ	8回 (6連覇含む)
2. 星野 美香	7回 (5連覇含む)
3. 平野早矢香	5回 (3連覇含む)
3. 大関 行江	5回 (2連覇含む)
5. 保原 キヨ	4回 (4連覇)
5. 石川 佳純	4回 (3連覇含む)
7. 松崎キミ代	3回 (2連覇含む)

(※優勝3回以上掲載)

☆3冠 タイトル数 (シングルス・ダブルス・混合ダブルス③種目制覇)

《男子》

齋藤 清 2回 (S57・58年度)

《女子》

伊藤 美誠 2回 (H29・30年度)

山泉 和子 1回 (S35年度)

石川 佳純 1回 (H26年度)

☆2冠 タイトル連覇記録 (シングルス・ダブルス②種目制覇)

《男子》

齋藤 清 4年連続 (S57年~60年度) [4回] (ダブルスパートナー: 渡辺 武弘)

水谷 隼 4年連続 (H18年~21年度) [4回] (ダブルスパートナー: 岸川 聖也)

☆ダブルス連覇記録

[通算優勝回数]

《男子》

水谷 隼・岸川 聖也 4年連続 (H18年~21年度) [5回] (H23年度)

渡辺 武弘・齋藤 清 4年連続 (S57年~60年度) [4回]

《女子》

藤井 寛子・若宮三紗子 4年連続 (H21年~24年度) [4回]

神田絵美子・山下 恵子 4年連続 (S55年~58年度) [4回]

《混合》

齋藤 清・細川幸智子 3年連続 (S61年~63年度) [3回]

渡辺 武弘・大野 知子 3年連続 (H 2年~ 4年度) [3回]

☆ダブルス最多優勝記録

渋谷 浩・松下 浩二 通算 7回

☆シングルス最年少優勝

張本 智和 H29年度 (中2/14歳)

《参考》高校生チャンピオン (9人)

S24年度・田中 良子

S58年度・星野 美香 (高3)

S63年度・佐藤 利香 (高2/17歳1ヶ月)

H18年度・水谷 隼 (高2)

H22年度・石川 佳純 (高3)

H23年度・吉村 真晴 (高3)

H24年度・丹羽 孝希 (高3)

H28年度・平野 美宇 (高1/16歳)

H29年度・伊藤 美誠 (高2/17歳) (H30年度/高3/連覇)

《ジュニア最年少優勝》 福原 愛 H13年度 (中1)

《参考》男子: 水谷 隼 H15年度 (中2) 張本 智和 H29年度 (中2)

☆シングルス最年長優勝

偉関 晴光 H15年度 41歳

《参考》女子最年長優勝…小山 ちれ H12年度 36歳

☆ダブルス最年少優勝

大柿 柴保 (高2)・河野 文江 (高1) H4年度

★通算勝数と出場回数

(記録は平成30年度大会終了時、所属は今大会時現在)

《男子シングルス》				《女子シングルス》			
選手	所属	勝数	回数	選手	所属	勝数	回数
水谷 隼	木下グループ	84	17	石川 佳純	全農	65	15
吉田 海偉	東京アート	55	14	平野 美宇	日本生命	29	10
岸川 聖也	ファースト	43	18	森蘭 美咲	TOP名古屋	27	13
三田村宗明	リトルキングス	37	21	近藤 早紀	日立化成	27	12
松平 賢二	協和キリン	35	15	伊藤 美誠	スターツ	25	9
丹羽 孝希	スヴェンソン	34	11	前田 美優	日本生命	22	11
大矢 英俊	ファースト	33	15	加藤 杏華	十六銀行	21	7
松平 健太	T.T彩たま	32	13	佐藤 瞳	ミキハウス	21	8
高木和 卓	東京アート	32	16	森 さくら	日本生命	20	9
齋藤 清	男子最多記録	101	30	伊藤 和子	女子最多記録	100	45

平成30年度 各種目優勝者

男子ダブルス



木造 勇人/張本 智和 組

女子ダブルス



伊藤 美誠/早田 ひな 組

混合ダブルス



伊藤 美誠/森蘭 政崇 組

ジュニア



出澤 杏佳・戸上 隼輔